

# 稲門フィラテリー

2025年6月1日発行

第95号

<http://post-stamp.org/wasephila.html>



## 白虎隊士 飯沼貞雄差出しの葉書

井上武志

以前、稲門フィラテリー22号に「白虎隊と板東収容所切手」という題で、切腹したが蘇生した白虎隊士飯沼貞雄について掲載していただきました。今回ご紹介するのは、飯沼貞雄の直筆の葉書です。会津若松の白虎隊資料館にもない貴重品です。たまたま、飯沼貞雄翁の孫の飯沼一元氏が、仙台の上杉山通小学校で私の先輩でした。

飯沼一元氏のお話では、祖父飯沼貞雄翁は飯盛山で切腹して蘇生したあと、敵の長州藩士に助けられ、山口県美祢市で養生したそうです。飯沼氏は、この裏面史によくとどり着いたものです。

憎い薩長に助けられたことは会津武士の名折れで、飯沼貞雄は生涯口外しなかったそうです。

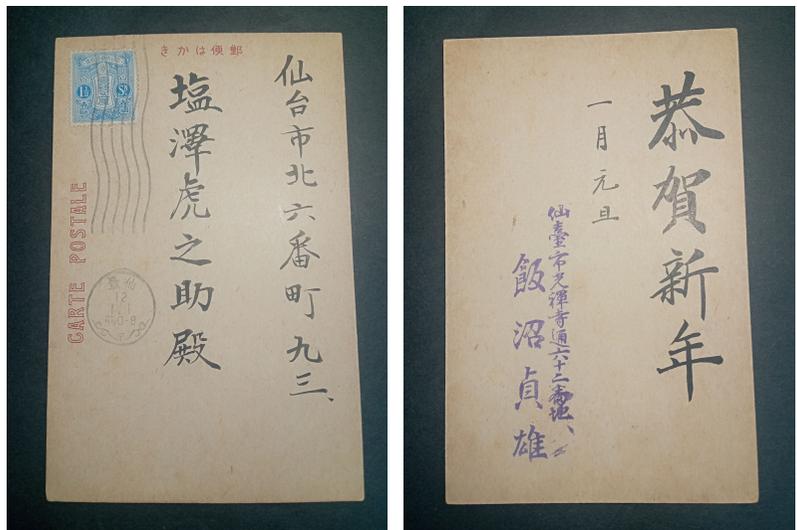


図1 飯沼貞雄差出の年賀状（大正12年1月1日）

左：宛名面 右：裏面

図1は飯沼貞雄が差し出した年賀状です。住所氏名はゴム印ですが、宛名と「恭賀新年」は直筆です。名宛人は、台湾で郵便局長をされた方です。

飯沼貞雄が養生した山口の家には、今でも「会津の少年が同居しており、よく勉学に励む人だった」「家の子供たちも見習うように厳しく言われた」「酒席で、

会津の死に損ないとからかわれ、刀で切腹しようとした」「皆で刀を取り返し、二度としないと約束させた」「逋信省の役人になって下関に勤務したときは遊びにきた」といった口伝が残っています。

会津史研究家のなかで、飯沼の『空白の5年』と言われる時代ですが、見どころのある少年

として長州が教育をしてくれたようです。この武士は檜崎頼三という心ある侍でしたが、その後パリで病没してしまい、新政府で活躍はできませんでした。

会津と長州は今でも犬猿の仲です。会津若松市と萩市の姉妹都市の件も、提携の調印会場で突然、会津若松市長に拒否されてしまいました。撮影中のテレビは放送事故になりました。

また、会津と長州の若者が東京で出会って、恋愛し、困難を乗り越えて結婚するという現代のラブドラマを上演しようと企画しました。両市の若い方々が、百年以上続く犬猿の仲を解消しようとしたのです。ところが、会津若松市役所に「子供たちは何も知らないのだ」と非難が殺到、ついに延期になっています（残念ながら無期延期です）。

大河ドラマは「八重の桜」に続いて、北清事変で活躍した、会津出身の柴五郎（のちに陸軍大将）を主人公にしたかどうかと思っています。映画「北京の55日」は、ブラザーズフォアの主題歌もヒットしました。映画では、柴五郎中佐は

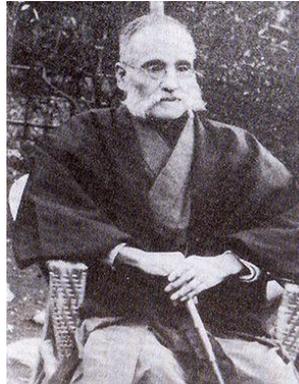


図2 飯沼貞雄



図3 柴五郎

伊丹十三が演じていましたが、脇役でした。アメリカの映画ですから仕方ありませんが、事実は、柴五郎の大活躍でした。英国公使に激賞され、

のちの日英同盟に結実しています。日露戦争の勝利の一因になりました。

会津人は頑迷なところがあり、福島県人にも敬遠される土地柄ですが、もう少し評価されてもいいと思います。

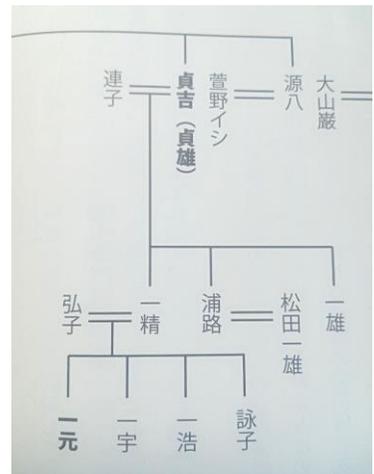


図4 飯沼家系図

# 小林彰君追悼

諸田志郎

小林彰君が3月28日に亡くなれたと奥様から4月にお知らせいただきました。

小林君とは昭和34年に早大切手研究会に入会した同期です。上田克己君、高橋仁君、鳥谷越（旧姓岡山）明子さんなど今でも親しくさせてもらっています。

学生会館のすぐ近くにあった今はない、茶房（その後有名になる学生が出入りしていた）で新入部員歓迎会を開いてもらいました。

小林君は理工学部の機械科ですが、当時校舎は早稲田キャンパスにあったので学生会館の会室に頻繁に出入りしていました。毎日のように会っていました。また、お宅も早稲田に近い文京区水道でしたので、時々お邪魔して切手のコレクションを見せてもらったりしました。すでに戦後の日本記念切手は銘版付きでそろっていたと思います。銭単位50円の小型シートほか重複品を格安に譲ってもらいました。時には先輩をまじえて大勢で押しかけ徹夜で麻雀をして家族に大変迷惑をかけました。大きなお宅で自分の部屋があり、お手伝いさんがいて、田舎者は驚きました。

3年生の後半になると卒論のための実験があるとのことで、いそがしそうでした。卒業後は、年賀状の挨拶だけであまり会うことはありませんでしたが、海外

赴任を目指し、フランス語を猛勉強したとのことです。希望が叶い、アルジェリア、カナダなどで活躍しました。

早大切手研究会50周年記念事業の後、稲門フィラテリーが設立された頃からまた小林君と交遊が再開しました。その後は、カナダの初期切手、在横浜フランス郵便局大型数字入5118入菱形印、在横浜ペイル兄弟洋菓子店などのユニークな研究や収集で注目を集めました。研究を発表した著書や雑誌をその都度送ってもらいました。

また、国際切手展を含め多くの切手展に精力的に出品し賞を獲得していました。

切手研究会の西村寿一郎さんから小林君に、三井賞が贈られたと教えてもらいました。

カルトール社日本代表に就かれ、郵政事業にも貢献されました。

最後に会ったのは、昨年5月の墨東郵趣連合の会合でした。その時、気になる会話があり、今年の年賀状も届かなかったので心配していました。

60年以上にわたる交遊でした。

ご冥福をお祈りいたします。

# オーストリア鉄道切手に遊ぶ

小川 義博

切手研時代にその凹版の美しさに魅かれて収集を始めたオーストリア切手。ちょうど凹版切手が発行の全盛期であったので大いに楽しんでた。その後、学生時代に始まり、社会人になり年数回の切手交換から家族間の交わりまで進み一昨年 88 歳で亡くなった 60 年続いた Graz の友人の存在でオーストリア切手を楽しんできた。その中で楽しんできたのがほとんど毎年発行された鉄道切手の存在である。我国のようにシリーズ切手でなく、周年記念切手であること、しかもローカル鉄道が対象となっていることに気が付いた。我がオーストリア切手 DATABASE で検索するとオーストリア連邦鉄道（独語：ÖBB, Österreichische Bundesbahnen）の周年記念、「切手の日」切手などもあり鉄道切手は約 100 種にもなり、一枚ずつ調べるとオーストリアを旅することになる。ÖBB の切手



オーストリア連邦鉄道 **ÖBB**, の周年記念

1937 年発行 100 周年 3 種, 1962 年発行 125 周年 1 種

1977 年発行 140 周年 3 種, 2012 年発行 175 周年 1 種



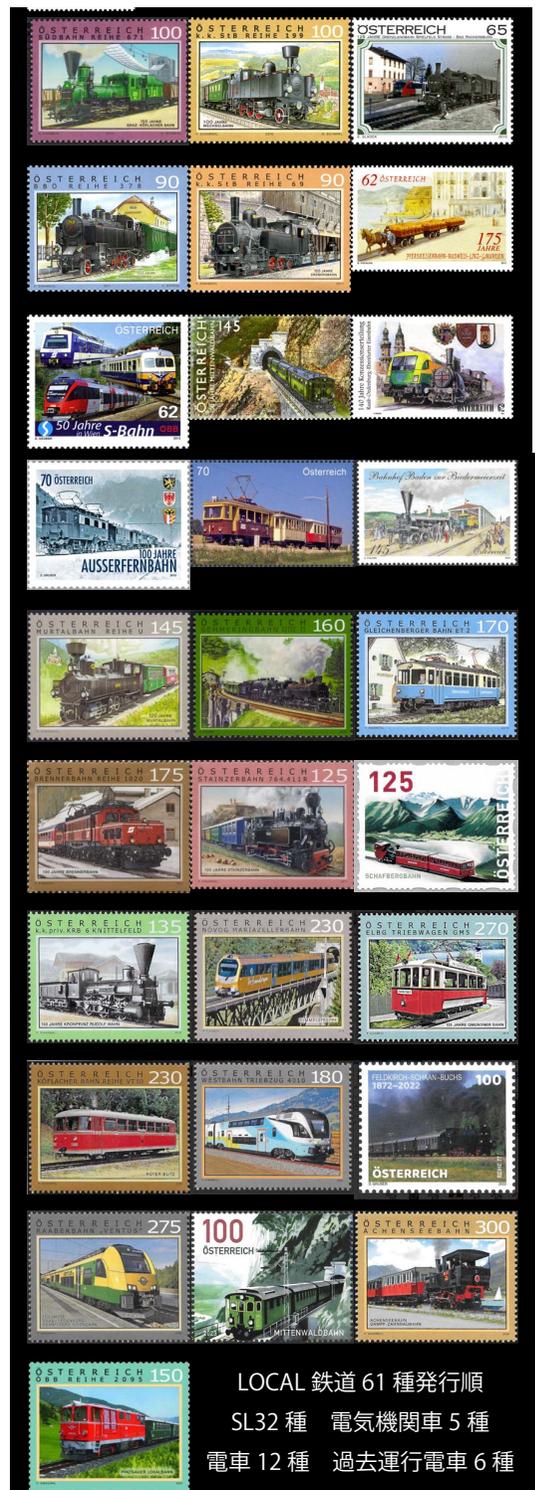
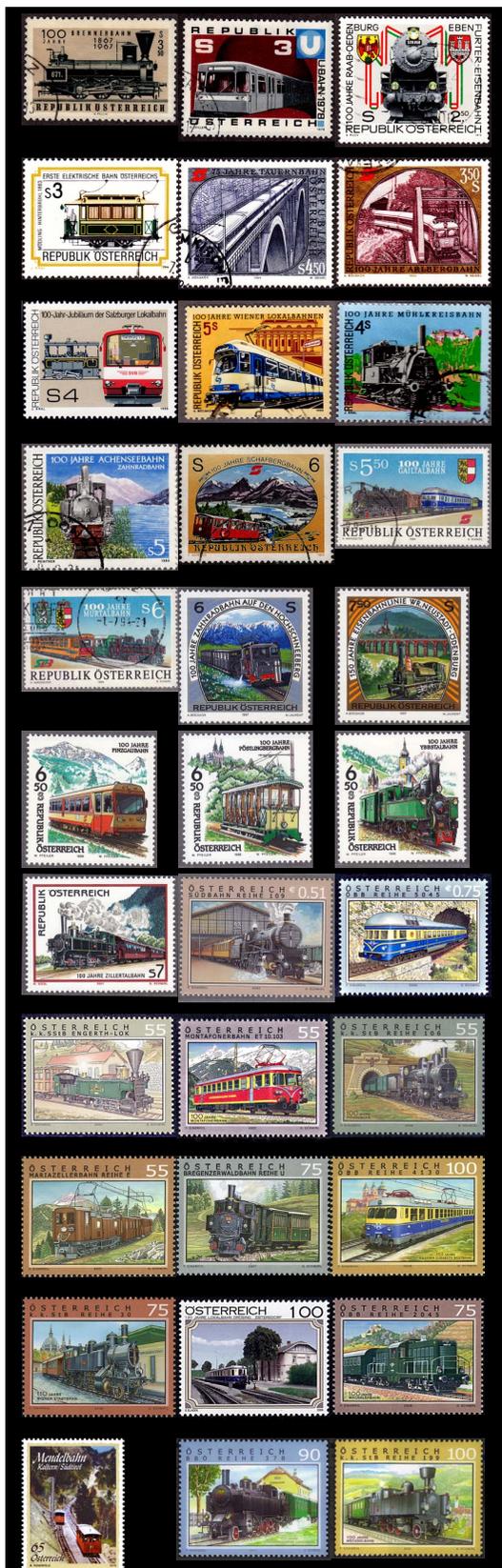
切手の日切手

グムデン グラーツ カールス広場 ザルツブルグ 5 年位の間隔で郵便車両、湖周航船、トラムなどを風景とともに描いた切手 2010 年から 2013 年発行の各都市を走るトラムを発行。デザインは定期的に特定のテーマ（風景、都市の公共交通、自然の風物詩など）を巡回して発行されオーストリアの観光や文化を紹介している。

は機関車が非常に細かくデザイン、印刷され鉄道資料としても優れたものと感じる切手である。「切手の日」のデザインは他の国の同趣旨で発行される切手と異なり、他の国はその文化を代表する文化財、人物等をデザインする切手が多いがオーストリアは観光という観点でデザインしている。

この観光という観点から発行されていると強く感じるのが Local 鉄道の周年記念切手で発行年順に並べたのが次頁の 61 種の切手である。ÖBB の切手と比べ鉄道車両単独デザイン切手は非常に少なく、鉄道車両の背景に沿線の風景、有名建造物が描かれている。また鉄道車両もかなり繊細に描かれており、鉄道切手としても情報量が多い切手となっている。この点、我国の鉄道切手は大いに参考とすべき点があると考え。またデザインされた鉄道車両の種類にも注意される。半数以上の切手に SL が描かれておりその大半が 1900 年代初期に運航していたものであり、動態保存はもちろん定時運航している SL が数多くみられる。この点、鉄道車両自体を観光資源として位置付けて沿線の観光資源と組み合わせての発行が長期間にわたり決定されているようである。これは切手発行の前に、鉄道車両を観光資源として廃棄しない、鉄道自体も観光資源として廃線としないという社会の意識、国の観光政策の方針が存在することを想像させる。

このような切手を見ていると鉄道の地図上の位置、沿線の風景、切手に描かれた車両の他の車両を知りたくなる。早速、Bahn 名を頼りにネットで検索してみるとほとんどの Bahn が詳しい HP を持っており、楽しく HP を徘徊でき、その一部の画像と説明を編集し稲門フィラテリーの HP に次 page の PDF に



LOCAL 鉄道 61 種発行順  
 SL32 種 電気機関車 5 種  
 電車 12 種 過去運行電車 6 種

紹介した。

<http://post-stamp.org/img/no-02-1album.pdf>

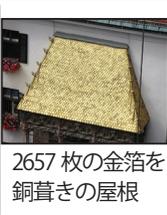
<http://post-stamp.org/img/no-02-2album.pdf>

<http://post-stamp.org/img/no-02-3album.pdf>

この記事を書き込んでいた時、NHKBS で

「アルプス絶景 SLの旅 オーストリア篇」という番組が放送され3本のSL鉄道が紹介された。この番組内容をPDF記事に加えてSL、沿線の景観などをさらに楽しめた。

まずチロル地方の州都インスブルックからÖBBで20分のイエンバッハ駅起点のSLの2本の鉄道、ツィラータール鉄道とアッヘンゼー鉄道が紹介されていた。



2657枚の金箔を銅葺きの屋根

インスブルックの名所  
黄金の小屋根

ツィラータール鉄道のHPは右上のようにまとめた。HPの説明では鉄道建設の目的を鉱業のためという印象であるが番組では林業・木材運搬そして終点マイヤーホーン駅から1800mをロープウェイでのオルペラー山3476mへの天空の氷河、年間を通してのスキー風景のツィラー渓谷（ツィラータール）観光を主に紹介している。2台のSLの運行は限られておりディーゼル低床車両が主に運行しているようだ。



### ツィラータール鉄道

鉄道開業以前のツィラー渓谷（ツィラータール）は遊牧機能が非常に悪く、観光産業の拠点であるマイヤーホーンフェンへ向かうためには途中のヴェル・アム・ツィラー（ドイツ国版）で乗り換える必要があるほど交通の便に支障をきたしていた。その改善を図るため1868年以降ツィラー渓谷へ向かう遊牧列車を作る動きが起き建設費用の削減などを目的として輸送機はボニアンゲージとも呼ばれる760mmの軌軸を採用し開業。1902年に敷設された前身は蒸気機関車2両、客車10両、貨物車2両、貨車20両であった。1928年以降はトックスにあったツィラー山麓からの鉱石輸送を開始し、1976年に鉱山が閉鎖するまで続いた。1964年に沿線の道路建設に併せて鉄道廃止するといふ動きが持ち上がったが、翌1965年にツィラー山のタウエル電力会社（ドイツ国版）が沿線に水力発電所を建設することになり、その資材輸送をツィラータール鉄道が担当する事となった。新型機関車の導入や標準軌から貨車を直通させるためのローンフェルの導入、新型輸送機の採用など様々な施策を実行し、発電所完成までに325,000tものセメントを輸送した功績により、大量輸送機関としての鉄道の価値が見直され、ツィラータール鉄道の存続が決定した。81km 26%



2011年発行  
ツィラータール鉄道100周年切手



2011年発行  
ツィラータール鉄道100周年切手



<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%84%E3%82%A3%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%98%4E9%81%93>



オーストリアで唯一、夏スキー可能な  
インタークス氷河

アッヘンゼー鉄道のHPは次PAGE左のようにまとめた。運行しているラックレール用SLは4台で定時運航しているヨーロッパ最古のSLであるという。海拔970mの峠を越えて6.8kmを50分で運行し2万年前にできた氷河湖アッヘン湖畔のゼーシュビッツ駅に到着する。到着に合わせて遊覧船が到着、観光客をアッヘン湖遊覧に導く。この湖、夏の避暑地となっており、湖畔には多くの別荘が連立している。この鉄道に関連して2種の切手をみつけた、アッヘン湖の遊覧船の切手と発行目的が判断できない。Zahnradbahn(アプト式鉄道)を記念する切手か、この遊覧船切手で遊覧船が鉄道に先行したことが判った。

### アッヘンゼー鉄道

チロル地方のアッヘン湖のゼースピッツとエンパッハ間 6.78 km を走る鉄道で海拔約 1440 メートルの急勾配区間はリッゲンバハラックステム (歯車鉄道) を使用している。ロープ最古の歯車鉄道で、現在でも蒸気機関車が運行されている。

<https://www.achenseebahn.at/>  
[https://en.wikipedia.org/wiki/Achensee\\_Railway](https://en.wikipedia.org/wiki/Achensee_Railway)



アッヘン湖のゼースピッツ・アム・アッヘンゼー駅




エンパッハ家で準備する2台の機関車



ビューアッヘンゼー鉄道歯車南車気機関車2号機



アッヘン湖遊覧




100 JAHRE ACHENSEEBAHN  
ZAHNRADBahn  
REPUBLIK ÖSTERREICH  
5  
1989

1989年 オーストリア発行  
ミューラックス鉄道 100 周年切手  
1889 F → 1989 年



zahnradbahn ラック式鉄道 歯車軌道鉄道



1987 年発行アッヘン湖遊覧船会社 100 年記念切手



100 Jahre Achensee Schifffahrt 1987  
S 4  
REPUBLIK ÖSTERREICH



車輪とは別に歯車ラック用のピストンが外側に



2023 年発行された切手 Achenseebahn の文字があるが、発行目的は観光的なものようだ



ÖSTERREICH ACHENSEEBahn 300  
SCHNITZFELDEN DAMPF-ZAHNRADBahn

S L 中央部に見える歯車。ラックレールにがみ合う前の状態

### シャフベルク鉄道

3 番目のサウンドミュージック舞台の急勾配を走る鉄道を右上に HP にまとめた。この鉄道の SL は他と異なり最新の SL が運行されており初期の SL は週に 1 回だけの運行である。勾配は上図のように 25.5°-シルと 1 キロ

### シャフベルク鉄道

シャフベルク鉄道 (ドイツ語: Schafbergbahn) は、オーバーエスターライヒとザルツブルクにあるメーターゲージの歯車式鉄道で、ザンクトヴォルフガングとザルツカンマーグートからシャフベルク (1,783 m) まで続いています。全長 5.85 km で、高軌は約 1,200 m になります。





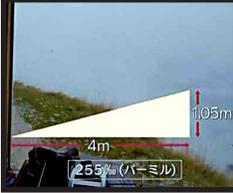

[https://en.wikipedia.org/wiki/Schafberg\\_Railway](https://en.wikipedia.org/wiki/Schafberg_Railway)



125  
ÖSTERREICH  
SCHAFBERGBahn  
Salzkammergut-Lokalbahn 1957




シャフベルク鉄道

105m  
4m  
25.5° (パーミル)



水蒸気を再加熱

で 25m 昇るとい世界一の急勾配 SL 運行の鉄道。この勾配を走行する SL は 1990 年代スイスで建造された SL で 2 度蒸気を沸騰させるターボ蒸気機関 (上図) とでもいえる機能を持ったものであり、更に石炭でなく重油で運行している。石炭 400 ~ 500kg 要する走行が重油 150 l で済み SDGs にも考慮しているという。1780m の頂上の手前 1730m のサンクトヴォルフガング駅に到着するとヴォルフガング湖をはじめ 3 つの湖水の眺望が開ける。

これら小さな Local 鉄道が廃線にならず英国にみられるボランティアでもなく企業として生き残っている観光以外のポイントを知りたくなったので AI に訊いてみた。

今回も ChatGPT を利用した。

2024 年 12 月 9 日

**Q** オーストリアで地方鉄道が廃線にならずに運行している理由を教えてください。

**A** オーストリアの地方私鉄が廃線にならず営業を続けられる理由は、いくつかの要因が挙げられます。以下にその主な理由を説明します。

### 1. 政府の支援と政策

オーストリアでは、地方交通を維持するための国や州からの補助金が手厚く支給されています。これにより、採算が取れない路線でも運行を継続できる仕組みが整っています。地方鉄道の存在は、地域の活性化や持続可能な交通手段の提供に寄与するとして、政策的に保護される傾向があります。

### 2. 観光需要

多くの地方私鉄は、美しい景観や観光名所へのアクセス手段として利用されています。例えば、アルプスの山岳地帯や湖の周辺を走る鉄道は、国内外の観光客に人気があります。この観光需要が、鉄道の存続を後押ししています。

### 3. 地域住民の足としての役割

地方私鉄は、車を持たない高齢者や学生、低所得者層にとって重要な移動手段です。特に冬季に雪が多い地域では、鉄道が安定した交通手段として重宝されるため、廃線が避けられています。

### 4. 環境意識の高まり

オーストリアは環境保護への関心が高い国の一つであり、鉄道は自動車よりも環境負荷が低い交通手段として注目されています。鉄道を利用することで二酸化炭素排出量を削減できるため、地方私鉄が環境政策の一環として支持されています。

### 5. インフラの近代化

オーストリアの地方私鉄は、鉄道車両や駅設備の近代化を進めることで、利用者の利便性向上に努めています。これにより、地域住民や観光客が鉄道を選ぶ動機が強まります。

### 6. 地域経済の支援

地方鉄道は地域経済においても重要な役割を果たしています。鉄道があることで観光業や地域商業が活性化し、その利益が鉄道の運営に還元される循環が生まれています。

### 7. 地域コミュニティの活動

多くの地方私鉄は地域住民や鉄道愛好家の支持を受けており、保存活動やプロモーションが活発です。これにより鉄道の存在意義が広く認識され、廃線を回避できています。

これらの要因が複合的に作用することで、オーストリアの地方私鉄は廃線を免れ、営業を継続することができているのです。

1の政府の支援と政策に興味を抱いたので、更に、説明を求めた。2024年12月12日

**Q** 政府の支援と政策について具体的な説明を下さい。

**A** オーストリアにおける地方交通の維持に関する具体的な政策として、以下の施策が挙げられます：

### 1. 公共サービス契約 (Public Service Obligation, PSO)

公共交通機関が不採算となる路線でも、地域の生活基盤や社会的利益を考慮し、国や州が運営会社と契約を結ぶ制度。

契約内容では、運行頻度、料金設定、サービス水準などが詳細に定められ、これを維持するための補助金が支給されます。

### 2. 補助金の直接支給

採算が取れない路線に対して、運行継続を目的とした直接的な財政支援が行われます。

地方鉄道やバス事業者に運行費用を補填する形で支給されるため、利用者負担を抑えつつ、サービスの維持が可能です。

### 3. 「 Klimaticket ( Klimaticket ) 」 の導入

全国を対象とした定額制公共交通利用バス「 Klimaticket 」により、地域交通の利用促進を図っています。

ユーザーが低料金で地方鉄道やバスを利用できるため、地方交通の需要を喚起し、維持費の一部を利用料でまかなえる仕組みです。

### 4. インフラの近代化と維持管理

国や州が鉄道インフラの改修・更新費用を負担し、地方鉄道の利便性や安全性を向上。

古い路線の廃止を防ぐために、車両の更新や駅施設の改修が進められています。

### 5. 地域交通ネットワークの統合

地域内のバス、鉄道、路面電車などの交通手段を統合し、効率的な運行を実現。

統一的な時刻表や料金体系を導入し、乗り継ぎをスムーズにすることで利用者の利便性を高めています。

### 6. 地方自治体の役割

地方自治体が主導して交通政策を策定し、地域に最適な公共交通網を構築。

地域住民のニーズに応じたダイヤ編成やルート調整が行われています。

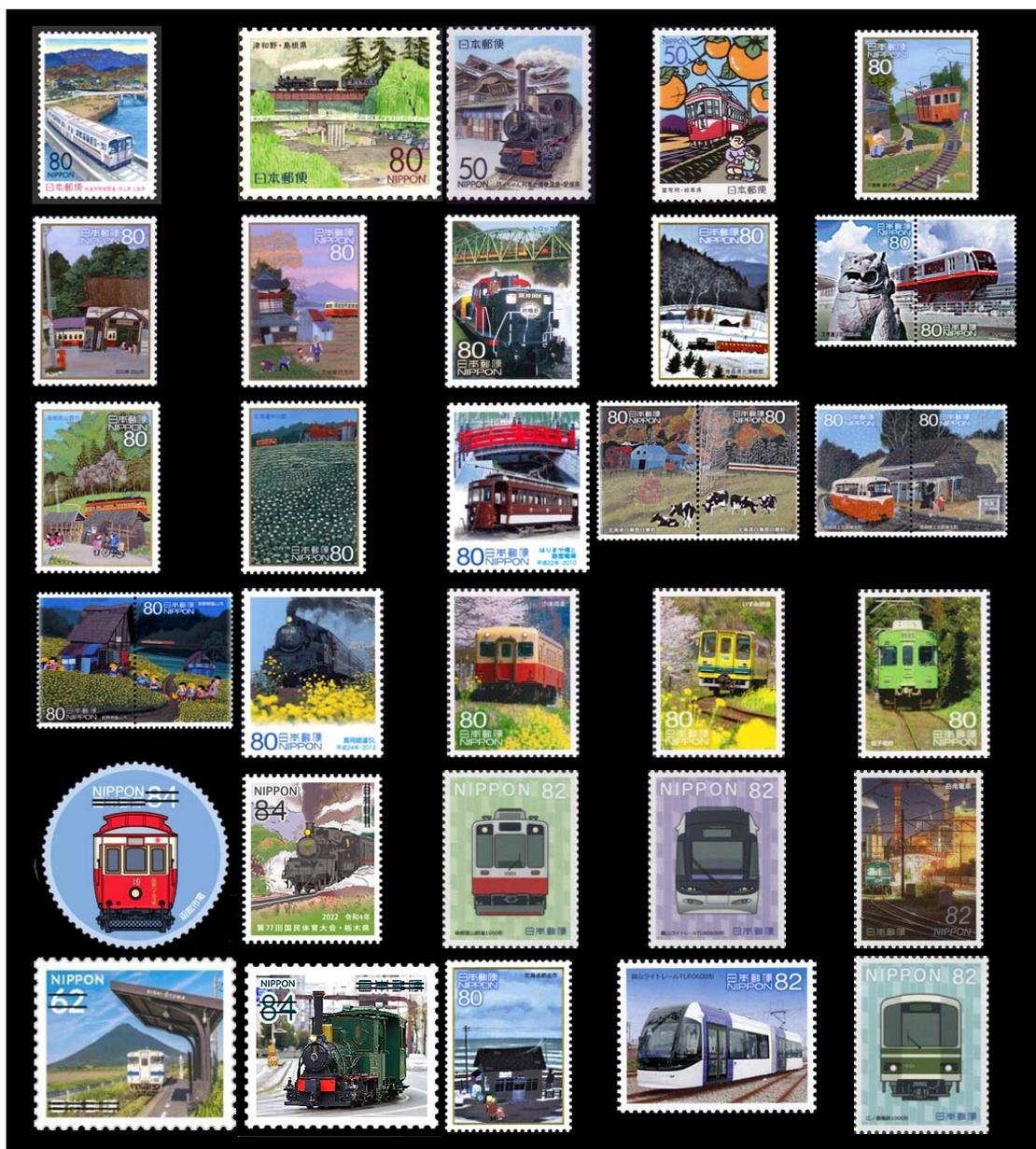
### 7. 環境保護政策との連携

地方交通を維持・強化することで、自家用車利用を抑制し、環境負荷の軽減を図る。CO<sub>2</sub> 排出削減目標と連動した交通政策の一環として、地方鉄道やバスが推進されています。これらの政策により、オーストリアでは地方交通の持続可能性が確保され、地域住民の生活利便性や環境保護の観点からも貢献が図られています。

スピードと採算を重視し、新幹線、リニア新幹線等ばかりに政策を向ける国であれば Local 線は消えていかざるを得ないことが明らかでさびしい限りである。

またオーストリアの Local 鉄道切手の発行もこの中に含まれた行政の配慮の一環であろう。

日本切手に無理してローカル鉄道を探しても 40 種も見つからない。



# 中原中也と郵便

池澤克就

今年3月に学会で山口を訪れた際、湯田温泉にある中原中也記念館を訪問した。実は10年ほど前、この記念館が開館20周年を迎えた際にも訪れたことがあり、当時は記念館に設置されたポストに手紙を投函すると中也のトレードマークである帽子を象った小型印を押印するサービスが実施されていた。図1はその際に中也記念館のポストに投函し、当時駐在していた上海の自宅宛に差し出したものである。



図1 中原中也記念館開館20周年小型印  
(2014年3月11日 山口湯田→上海宛)

さて、今回訪問した際には記念館内で「郵便で御免下さい」なるテーマで企画展が開催されていた。企画展のポスターや展示会場の入口には、切手風の中也の肖像に開催期間などが楕型印を模して配されていた。郵便好きには嬉しいデザインである(図2・図3)。中也が差し出した手紙だけではなく、知人から中也にあてた手紙が多数展示されていた。当時の通信手段は手



図2 「郵便で御免下さい」展ポスター



図3 企画展入口

紙が中心であったから、手紙の文章から詩人の日常のこまごまとした生活や苦悩が感じ取れるのが興味深かった。

館内には赤い丸型ポストが設置され、実際に手紙を投函できるようになっていた(図4)。ここに投函された手紙は毎週火曜日に山口湯田郵便局が取り集め、同局の風景印を押して届けられるとのこと。記念館で求めた絵はがきを投函したところ、ちゃんと風景印が押されて届いた(図5)。風景印に描かれているのは、



図4 記念館内の受付前に立つ丸型ポスト



図5 記念館内のポストから投函したはがき



図6 井上公園にある中也の詩碑

記念館の近くの井上公園(井上馨旧宅跡に作られた公園)内に設置されている中也の詩碑である(図6)。この詩碑は昭和40年に建てられ、中也の詩『帰郷』を小林秀雄が揮毫したもので、記念館に小林秀雄の筆による碑文筆跡が展示されていた(図7)。生まれた場所だけあって、湯田には中也ゆかりの場所が多く、歩いて

いるとあちこちで詩人の足跡を感じることができる。今回は学会のスケジュールの都合で数時間の滞在であったが、湯田温泉界限はいずれまたゆっくり訪れてみたい。

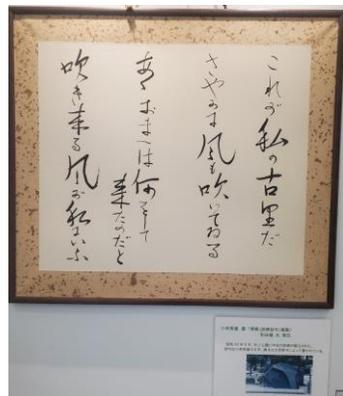
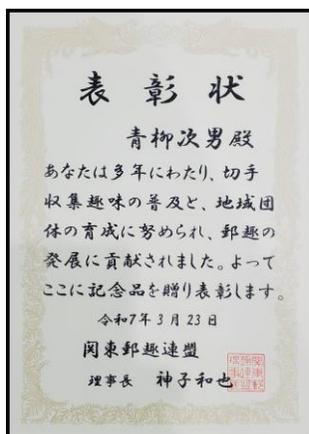


図7 小林秀雄が揮毫した詩碑の本文

## ■関東郵趣連盟総会にて表彰される

2025年3月23日、台東区民会館（浅草）にて関東郵趣連盟の総会・交流会が開催された。関東郵趣連盟では毎年会員の中より郵趣の普及向上に貢献された会員の表彰を行っているが、今回稲門フィラテリーでの青柳会員の活動が表彰を受け、当日青柳会員が関東郵趣連盟神子理事長より賞状と記念品を授与された。総会には、他に宮鍋会員、諸田会員、池澤会員が出席した。



神子理事長より表彰を受ける青柳会員



関東郵趣連盟総会にて  
(左より池澤・諸田・青柳・宮鍋会員)

## ■竹中会員が書籍出版

竹中会員がワニブックスから書籍を出版された。『タワマン理事長 ある電通マンの記録』と題した本書は、首都圏で念願のタワマンを購入した元電通マンがある日突然マンション管理組合の理事長になり、さまざまなクレームやトラブル対応に追われる実体験を綴ったもの。ぜひ手に取ってごらんください。



## ■稲門祭 2025

今年の稲門祭は10月19日(日)です。当日は早稲田キャンパスで総会を開催予定。詳細は次号でお知らせいたします。

## ◇編集後記

実家を畳むことになり断捨離を敢行。切手以外にも小学生の頃に集めていたものがいろいろ出てきました。思い出の詰まった大切な宝物、捨てるのにはなかなかエネルギーが要るものです。これもコレクターの宿命でしょうか。

発行日：2025年6月1日

発行・著作：稲門フィラテリー

発行人：池澤克就

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4階

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

編集担当：池澤克就 木元淳一郎

本会報からの無断掲載・複製は、メディアを問わず禁止します。